

## まとめ

### 問題点の整理

**吉野** 本日の話し合いは、日本語を母語としない学齢期の子どもの言語教育の問題を把握し、国語教育・日本語教育それぞれが言語教育についての問題意識を共有しましょうということでございました。

今日お話しいただいたことを私なりに整理してみますと、一つは、教科学習と日本語能力および母（国）語能力の問題、特に来日時の年齢や家庭における言語環境との関連についてということがあったと思います。また、それに関連して、教科書で使用される日本語の語彙や構文の問題、現場における評価の問題について具体的にご指摘いただきました。

またもう一つ、インターナショナルスクールにおける多様性に富んだ子どもたちに対する言語教育についてもご紹介いただきました。教育方法や理念について学ぶことも多いと思われませんが、日本社会が外国語や第二言語として日本語を学んだ人をどのように受け入れていくか、どのようにコミュニケーションしていくのかに関心があるとおっしゃったスコギンズさんのご発言は、中野さんのお話、つまり日本が多文化社会・多言語社会になっていくのかどうかという問題とも通じるところがあるのではないかと思います。

### 地道な調整、対象者の発言する場の必要性

お話を伺いながら感じたことの一つは、教える側からの視点、日本人側の視点だけでなく、対象となっている子どもやその家族の側からの提案や提言も汲み取っていかなければならないのでは、ということです。そのためには、インドシナ難民の子どもたちやインターナショナルスクールの子どもの子どもたちに対する調査のように、日本という環境の中で、今子どもたちがどのようなプロセスで、どのような問題を抱えながら言語や文化を習得していつているのかを地道に調査することも必要でしょうし、家族の側が発言する機会を十分に保障されることも必要ではないかと思えます。

### 今後の大きな課題

最初に西川さんが指摘された枠組みの中には、今日取り上げることができなかった問題がまだまだ沢山あります。また、今回は第二の目的については十分な話し合いを持つことができませんでした。言語的、文化的に多様な子どもたちが加わったことによって、日本の教育がどのように変わるのか、それをどのようにプラスに生かすかは今後の大きな課題だと思われます。

まだまだ、ご発言をいただきたい方々が沢山いらっしゃるのですが、次の機会に譲らざるをえないようです。ありがとうございました。